

明日の県立図書館を思う 萩美香さん(女優)

三重県立図書館の思い出

中学、高校、大学時代に県立図書館を使った。主にクラブ活動(ディベート部)の準備、資料探しのため。ディベートはいい資料がないと勝てない。誰による資料か、どの資料を選択するかで勝負が決まる。違う資料を求めて、リージョン(津図書館)、久居、松阪、鈴鹿も行った。

県立には、グループで資料を読み、声を出せるスペースがあるのがよかった。(2階のスペースなど)リージョンは静かなので談話はできなかった。

県立と津市立の違い

専門的な資料があるか。県立では、研究の成果や、数字を調べたいときに利用する。リージョンは本を読むための場所。

県立図書館に足りないこと、改善を求めること

揃う資料が少なく、何度も名古屋(愛知県図書館も、市立も)へ行った。資料の量と新しさが違う。だから、資料を得やすい愛知県のディベート部は強い。

開架が少ない。小説などはあるが、自分たちが求めていた本はなかった。閉架書庫の資料は頼みづらく、10冊程度に遠慮していた。大量の請求をしていたので職員には疎まれていたと思う。

閉架書庫から出してもらった本をちらちらと見る場所がカウンター近くに欲しい。声を出したいときは児童コーナーに行った。コピー機の近くに本、荷物を置けるスペースが欲しい。

カウンターが広く、どこにいけばいいか迷う。

閉架書庫に入りたい。本の並びを見て本を選ぶので。もしくは、検索機能が充実されて、少なくとも目次が入っていればいいのだが。

県立図書館の資料

ディベートテーマが原発の時、芦浜関係の資料がよく揃った。風力発電関係も揃った。

図書館の謎

レファレンスは尋ね難い。声が出せない雰囲気。漠然とは、気軽に尋ねていいものとは思わなかった。仕事の邪魔をするような感じもした。

コピー申請書は、書いたあとどうなっているのか。形式だけ？

専門書には線が引いてあったりすることも多い。